

# 蕪崎市立小、中学校適正規模・適正配置検討委員会

## 第6回会議 会議録

---

日時：2026年6月22日（月） 18:30～19:26

場所：蕪崎市役所 別館 201 会議室

出席委員：清水宏幸、飯野直人、保坂耕、松永辰美、星ひろみ、長坂宗雄、松井良子、名取知佳、皆川賢司、渡邊史、根岸利文、内藤香織、金丸光太郎

欠席委員：横内郷志、山本政広

（事務局）堀川教育長、望月課長、秋山リーダー、田中指導主事、紫村

作成者：教育委員会事務局

### 1 開会・あいさつ

（1）新任委員及び新任事務職員あいさつ

・定刻に伴い開会を宣言した。本委員会が「蕪崎市審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づく議事録公開対象（発言者名は非公開）である旨及び、蕪崎市立小、中学校適正規模・適正配置検討委員会要綱第6条第2項に基づき、委員15名中13名出席で定足数を満たしていることが報告された。新任委員5名および新任事務局職員2名を紹介及び挨拶がなされた。

（2）教育長あいさつ

・新任委員への謝辞に続き、昨年度末（令和7年度）にとりまとめられた「中間報告」に触れ、令和8年度は学校運営協議会や地域懇談会を通じて保護者や地域の意見を広く聴取し、最終答申に向けた重要かつ具体的な審議を重ねるよう要望した。

（3）委員長あいさつ

・2030年に改訂される次期学習指導要領の動向（「主体的・対話的で深い学び」の定着、多様性の包摂）について言及。子供たちの目線を最優先に据え、これからの蕪崎市にふさわしい望ましい教育環境・学校規模のあり方について、年間を通じて丁寧な議論を行いたい旨を述べた。

## 2 資料確認

### (1) 配付資料の確認

- ・以下の配付資料について確認が行われ、不足のないことが報告された。
  - － A4・1枚：本日の次第
  - － A4 ホチキス止め：右上に「議題資料1」と記載の資料
  - － A4・1枚：右上に「議題資料2」と記載の資料

## 3 議事 (1) 令和7年度中間報告について及び (2) 令和8年度の審議方針及びスケジュールについて

事務局より、議題資料1・2に基づき以下の通り一括説明がなされた。

### ①令和7年度中間報告について

- ・国の示す適正規模の考え方を踏まえつつ、本市の児童生徒数が20年間で半数近くまで減少（令和7年度は1,720人）している現状を報告した。また、適正規模の基準を小学校は「1学年2学級以上」、中学校は「1学年3学級以上」と説明した。
- ・今後も児童数減少と複式学級の継続が見込まれる穂坂小学校については、将来的な教育環境維持のため「統合が望ましい」との方向性を提示。通学距離や時間を考慮し、葦崎小学校または葦崎北東小学校との早期の統合準備開始が望ましい旨が昨年度末にまとめられた旨を説明した。

### ②令和8年度の審議方針及びスケジュールについて

- ・本委員会は具体的な統合先の最終決定ではなく、教育環境上の課題や通学支援・安全対策等の必要施策を整理し「答申」を取りまとめる役割を担い、方針決定は市が担う旨を説明した。
- ・7月と10月に地域懇談会・学校運営協議会を開催して住民意見を募り、それらを委員会に反映させながら、2027年2月の最終答申提出を目途に審議を進めることと、2回目以降の検討委員会については、地域懇談会等のご意見等を受け、整理・検討していくため、予定（目安）である旨を説明した。

## 4 質疑応答

### ○委員

中間報告が新聞等で報道された際、地域では既に「統合が決定事項である」かのよう受け止められ、保護者や児童の間に大きな動揺が広がった。他校からも「穂坂小

がなくなる」と言われ、非常にショックを受けている。この中間報告の内容は、まだ確定事項ではないという認識でよいかと述べた。

●事務局

中間報告はあくまで検討委員会として「何が望ましいか」という意見をまとめたただいた段階のものであり、決定事項ではない。報道により地域に不安を与えてしまったことは申し訳なく思う。今後、7月25日に穂坂小体育館にて地域懇談会を開催し、住民や保護者から直接意見を伺う。市としての方針決定や学区等の根本的な検討は、それらの意見や今後の答申を踏まえ、地域の理解を得ながら丁寧に進めていくと説明した。

○委員

資料にはアンケート結果を踏まえたところがあるが、報道後、これから入学を控える未就学児の世帯から「すぐになくなってしまいう学校には行かせたくない」という声が複数上がっている。数年後の閉校を懸念し、最初から葦崎小学校など他校を選ぼうとする動きが出ている。子供や親は「6年間同じ学校で学びたい」という思いが強い。学校間の差は特色としてあっても良いと考えており、移住促進の観点からも小規模校を存続させる道を模索してほしい。アンケートや意見聴取は、これから入学する層の地域住民の声もあっても良いのではないかと述べた。

●事務局

就学前のお子様を持つ世帯の懸念や、「6年間同じ学校で」という要望は承知している。そうした声も広くお伺いするため、7月の地域懇談会の案内は、現保護者向けのPTA連絡網だけでなく、穂坂町の全世帯へ各戸配布する。ぜひ会場で意見を伝えていただきたいと説明した。

○委員

地域懇談会の開催にあたり、具体的にどのような形で住民に周知し、どのような体制で集まるのか、詳細を教えてほしいと述べた。

●事務局

7月25日（土）の夜19時30分から、穂坂小学校の体育館にて開催する。対象は穂坂町の全住民とし、各戸配布の案内文を送付する。地区の区長会とも事前に協議を行い、住民が集まりやすい時間帯や駐車場のキャパシティを考慮した上で、同会場を設定したと説明した。

○委員

7月の地域懇談会では、住民から非常に多種多様な意見が出されることが想定される。スケジュールありきで進めるのではなく、まずは一度懇談会を実施し、そこで出た厳しい意見や課題を整理した上で、8月以降の検討会の方向性や審議スケジュールを柔軟に見直していくべきではないかと述べた。

●事務局

指摘の通り、まずは地域懇談会で住民の生の声をしっかりと伺い、課題を持ち帰って整理することが最優先である。その内容を検討委員会に差し戻した上で、8月以降

の具体的な進め方や対応施策について、皆様と改めてご相談・ご審議いただく形をとりたいと説明した。

◎委員長

お示したスケジュールはあくまで目安であって、我々は中立な立場で「子供たちにとってどのような配置・学校規模が最適か」を丁寧に議論する責務がある。7月の懇談会の結果を踏まえ、柔軟に考えを深めながら進めていく方針を確認したいと述べた。

○委員

4月に赴任した際、地域住民から最初に掛けられたのが「穂坂小はなくなる」という言葉だった。これまでの検討経緯や情報公開が地域に正確に伝わっておらず、「施設が今後こう使われるらしい」といった噂が先行し、学校運営協議会でも不安視されていたのが実情である。今後は本委員会での議論内容を含め、丁寧かつ確実な情報発信に努めてほしい。議事録の公開自体を知らない住民も多いため、情報公開のあり方を徹底しなければ住民の合意形成は難しい。先日、課長がPTA総会で直接説明したことで保護者も一安心していたため、正確な情報伝達を強く要望すると述べた。

●事務局

情報公開の重要性は深く認識しており、今後はさらに丁寧に対応していく。7月14日の学校運営協議会での説明、および7月25日の地域懇談会を通じて中間報告の主旨を正しく説明し、そこで得た意見を今後の検討会の審議にしっかりと反映させていくと説明した。

◎委員長

審議方針および年間スケジュールについては、今後の動向を踏まえて柔軟に変更し得る「目安」として、一同で了承することとしたいと述べた。

○委員

7月の地域懇談会において、地域住民がどのような意見を持ち、どのような態度で参加しているのか、現場の様子を把握したい。委員が前に並ぶのではなく、いち市民として一般席から傍聴・参加する形は可能かと述べた。

●事務局

学校統合の問題は非常にデリケートであるため、懇談会当日は住民から厳しい意見等が出ることも想定される。検討委員の皆様が住民の前でお話しすることは想定しておらず、現場での対応はすべて教育委員会職員に任せたい。出された意見は必ず当委員会に持ち帰る。今回の懇談会は意見集約のため対象を穂坂町住民に限定

しているが、委員の同席・傍聴を可能とするか否かは、事務局で再度慎重に検討し、追って連絡すると説明した。

◎委員長

委員の名簿が公表されている中で、直接的なアクセスや現場での誹謗中傷といったリスクも想定される。事務局がそうした繊細な部分を配慮してくれているため判断に任せたいが、委員の安全確保も含めた慎重な対応が必要であると述べた。

●教育長

委員の皆様には、子供を中心に据えて純粋に教育環境のあり方を審議いただく立場であるため、懇談会の場に同席することが適当か否か、リスクの側面も含めて慎重に見極める必要があると考えていると述べた。

○委員

情報の偏りから住民の間に「学校がなくなる」という警戒感が先行している。その場に検討委員が臨席しているとなれば、住民側の受け止め方が変わり、かえって議論が複雑化する恐れがある。まずは第1回を穂坂の関係者と市職員のみで実施し、その結果や厳しい意見の出方を見てから、懇談会のあり方や委員会参画の是非を判断すべきではないか。今回は穂坂の関係者のみで進める形が良いと考えると述べた。

◎委員長

委員の提案通り、今回の懇談会運営については事務局の判断に委ね、今後の状況を見ながら引き続き当委員会で検討していく形としたいと述べた。

○委員

地域から多種多様な意見が出され、議論を重ねることで会議の回数が増える可能性も想定されるが、最終ラインである「2月の最終答申案取りまとめ」という日程自体は変更しないのか、確認したい。地域や未就学児の保護者にとって極めて大きな問題であり、慎重な進行が必要だと述べた。

●事務局

委員会の任期期間および「2月目途」という最終答申の全体スケジュール自体は変更を想定していない。可能な限り予定の枠組みの中で議論を集約したい。本委員会は特定の統合の是非を審議する場ではなく、「子供たちにとって一番良い学びの場は何か」という純粋な教育環境の議論をしていただく場であるため、地域の個別事情とは一定の整理をつけながら審議を集約していきたいと説明した。

○委員

限られた回数であっても、「子供たちにとって何が一番良いのか」という最優先の軸は譲らず、地域住民の考えも大切にしながら、今後の委員会に慎重に臨みたいと述べた。

◎委員長

本委員会に決定権があるわけではなく、あくまで子供たちの目線を中心に据えて蕪崎市の学校規模・配置のあり方を議論し、教育委員会へ答申する立場である。今後もその軸をぶらさずに丁寧な議論を重ねていきたいと述べた。

## 5 その他

- ・事務局より、次回日程等のアナウンスをおこなった。

## 6 閉会

- ・19時26分、閉会となった。